

## 社外関係者とのファイル共有 「メールで転送」は時間のムダ

仕事を進めていくうえで、社外とのファイルのやり取りは必須だ。この作業を、メール添付やファイルサーバーで行っている場合、大きなムダが発生している。どのようなムダがあるのか、具体的に紹介しよう。

### ➤ メール添付でファイル共有するムダ

メール添付でファイルを共有する場合、セキュリティの観点から暗号化の処理をして添付するケースが多い。この作業が思いのほか面倒なこともあるし、ファイルの容量が大きいと分割する作業が発生することもある。受け取る側にとっても、送られてきたファイルを解凍するのは煩雑で、時間が経つと解凍パスワードがどのファイルのものだったのか、わからなくなってしまうケースもでてくる。

また、そのファイルを複数の人で共有してレビューを加えるなど、何度もやり取りが行われる場合は、さらに面倒になる。ファイルの最新バージョンがどれかわからなくなって、探すのに時間がかかってしまうこともある。

このように、メール添付によるファイルのやり取りには、多くの時間のムダが発生している。重要な仕事ほど、社外でファイルを何度もやり取りして、ドキュメントを完成させていくケースが多い。このムダを削減できれば、生産性向上につながるはずだ。

## Dropbox Businessによる生産性向上

Dropbox導入企業8社

平均**2.1%**の生産性向上 = 1ヶ月あたり**約3時間**の節約

### 削減内容の例

ファイルを1箇所に集約するための時間、集約されていない最新ファイルを見つけるための時間

外出先からデータアクセスするためのVPNなどのログイン作業などの時間

社内外にファイルを転送、共有するための時間

新しいユーザーの教育時間、デバイス故障、紛失時の業務への復帰時間

では、社内のファイルサーバーを活用する方法はどうだろう。そもそも、社外からファイルサーバにアクセスできるようにするには、ファイアウォールやVPNなどを設置する必要がある。さらに、社外メンバーが社内のファイルサーバーにアクセスできるようにするには、十分なセキュリティ対策も必要になるし、管理面での負担も大きい。社内外の関係者がどこからでもファイルを利用するには、ファイルサーバーは現実的ではないということだ。

## どこからでも関係者がセキュアにアクセスするには

社内外の関係者が、どこからでも必要なファイルにアクセスできる環境を手軽に実現できるのがクラウド

ストレージの「Dropbox」だ。初期投資がかからずすぐに利用でき、管理もしやすいため、IT部門にも負担がかからない。

Dropboxでは、基本的に1つのファイルを編集、更新していくため、つねに最新版を共有でき、メール添付による共有で起こりがちな「最新版がわからなくなる」といったこともなくなる。また、大規模容量のファイルにも対応しているため、分割・圧縮してやり取りしなくてはならないファイルもほぼゼロとなる。

Dropbox デスクトップアプリは Windows Explorer と一体になっているため、今まで通りの Windows 操作でファイルの編集・共有・共同作業などを実現できる。そのため利用のために新たにユーザーを教育する必要もなく、操作ミスが頻発するというような心配は不要だ。

## ROI のシミュレーション例

	1時間当たりの人件費	<b>3,200円*</b>
	1ヶ月あたりDropboxで節約できる時間	<b>3時間</b>
	対象ユーザー数	<b>150人</b>

**年間 17,280,000 円の人件費を新たな業務に**

※平成26年国税庁民間給与実態統計調査結果の平均年収の415万円を人件費として1.5倍として算出

図：Dropboxによる生産性向上

# 社内でのファイル共有、 ファイルサーバーの管理は見えないコストだらけ

## ▶ ファイルサーバーにかかるコストを軽減

ファイルサーバーを利用している企業では、ハードウェアやソフトウェアの償却が済んでいるというケースもあるだろう。しかし、1ファイルあたりの容量は大容量化しているため、ストレージの追加も頻繁となるケースが増えている。また、5年以上経過するとハードウェアの交換時期を考えなくてはならないし、ソフトウェアのバージョンアップに伴う費用も発生する可能性がある。

自前でファイルサーバーを構築し維持、管理していくのに必要なコストはそれだけではない。バックアップやセキュリティ対策の費用、万が一自然災害などで社内のファイルサーバーが壊れた場合に備え、新たに事業を継続できるような仕組みも考えなくてはならない。また意図しないファイル削除などヒューマンエラーやハードウェアの故障時のファイル復旧対応のためIT部門に負荷がかかるケースなど、管理コストも無視できない。

こうしたコストに対し、Dropboxを使うと5年間

で総所有コスト（TCO）が30%以上削減できるという試算も出ている。また作業時間で見ると、1人あたり、1カ月で3時間以上時間を節約できているという結果もある。150人の社内ユーザーがいると考えると、1人あたり5000円程度の節約ができるとして年間数千万円の金額が別の経営施策に利用できる。しかも省力化によって新しい仕事に社員が取り組む時間も確保できるようになる。

## ▶ 強固で冗長化されたインフラと暗号化によるデータ保護

Dropboxは、セキュリティ面も充実している。地理的に離れた位置にデータセンターを設置、さまざまなレベルでデータを冗長管理し保護していることはもちろん、データの送受信の暗号化（SSL/TLS）、ストレージ内でのAES 256ビットによる暗号化を行っている。

また、99.99999999%の可用性とバックアップ

## 5年間のTCOの比較例 - TCOを30%以上削減

ファイルサーバーのケースと比較すると、Dropbox Businessは費用そのものを下げるだけでなく、費用に対する考え方もシンプルにすることができます

1: 既存ファイルサーバーのケース		¥30,500,000		
■ 基本項目	費用(年額)	5年TCO		備考
1. 初期費用	0	0		■すでにハードウェアは設置済み
2. 保守費用年額	¥2,500,000	¥12,500,000		
3. ディスク追加及び老朽化対策費用	¥10,000,000	¥10,000,000		■5年間でデータ増加が2倍と想定。システム単価が1/2と想定。=取得初期費用の同額で算出。
4. 電気代	¥100,000	¥500,000		
■ 追加項目				
5. セキュリティ対策増強費用	¥500,000	¥2,500,000		■次世代ファイアウォール導入、ランサムウェア対策含む
6. BCP対策費用	¥1,000,000	¥5,000,000		■別途データセンター契約、バックアップを想定
2: Dropbox Businessのケース		¥20,000,000		
■ 基本項目	費用(年額)	5年TCO		
初期費用	¥2,000,000	¥2,000,000		既存サーバーからのデータ移行のフォルト耐性基本設計、設定作業、移行支援 (SkySync移行バック利用)
サービス利用費用	¥3,600,000	¥18,000,000		ご契約人数: 150人 (Dropbox Business Advanced利用)

図: 5年間のTCOの比較

機能を持ち、デバイス台数・接続承認機能や端末紛失時の遠隔削除機能も標準で用意されている。アクティビティ管理では、ローカルへのコピー禁止などさまざまな制御が可能で、チームフォルダはフォルダごとに共有ポリシー設定でき、共有リンク・フォルダ共有のポリシーの設定もできる。コンプライアンス管理では、米国公認会計士協会（AICPA）が定める内部統制保証報告 SOC1、SOC2、SOC3 を取得済みで、政府機関や裁判所から届く情報の閲覧要請に対する対応実績を公開している。

情報漏洩対策では、ユーザーのファイルが保存されるストレージサーバーで暗号化することはもちろん、ブロックサーバーを設置して、Dropbox アプリケーションからのファイルをブロックに分け、強力な暗号を使って管理している。さらにメタデータサーバーによって、MySQL ベースのデータベースサービスにメ

タデータを保管するという措置も行っている。バックアップはすべてのメタデータに対して、1 時間ごとの増分バックアップと 3 日に 1 回、完全バックアップが行われている。この仕組みを使って削除されたファイルや変更したすべてのバージョンは 120 日間保存され、ユーザーにより簡単に復元できるようになっている。

つまり Dropbox は、外部の専門機関からも信頼性を保証されるサイバー攻撃にも強いインフラを構築しており、さらにデータそのものに対しても強力な暗号化によって保護しているということだ。ファイルサーバーに対してこれだけの対策を一般の企業が講じることはほぼ不可能だろう。

このように、Dropbox はユーザーの利便性を向上させながら、セキュアにファイルを共有できるソリューションだ。ぜひ、Dropbox を試して、その効果を実感してほしい。

